

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第一中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○1、2年生の国語は、すべての領域で市及び全国の平均正答率とほぼ同程度である。
 ○2年生の数学の記述式問題において、昨年度(1年時)は市平均正答率を下回っていたが、今年度は市平均正答率と同程度である。
 ○2年生の英語の記述式問題は、一つを除いて市及び全国平均正答率を大きく上回る。
 ○3年生の英語は、二つ以外の問題で県平均正答率を大きく上回り、半数以上の問題で全国平均正答率を大きく上回る。
 ●全学年のすべての教科において、無解答率が約3割程度ある。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体的に、市及び全国平均正答率ともに、同程度である。 ○記述問題において、「自分の考えを書くこと」については全国平均正答率と同程度、もしくはやや上回る。 ●記述式問題において「資料から読み取ったこと」をふまえて書くことは全国平均正答率を大きく下回る。 ●記述式問題において、無解答率が約3割である。	□日常生活でよく使う漢字や語句は理解できているが、慣用句などは理解できていないので、日常生活で使わない言葉にもしっかり触れさせるようにする。 □自分の意見や考えを書かせる場合、根拠として、資料やデータ、筆者の意見等を使いながら書く習慣をつけさせる。
	2年	○「読むこと」の領域では、市平均正答率よりやや上回り、全国平均正答率を大きく上回る。 ●「書くこと」の領域では、全国平均正答率と同程度だが、市平均正答率をやや下回り、特に条件付きの作文問題は全国平均正答率を大きく下回る。 ●記述式問題において、無解答率が約3割である。	□授業において、資料やデータの読み取り及び字数など、条件を設けて書く活動を増やしていく。
	3年	○「書くこと」、「読むこと」の領域では、県平均正答率を上回り、全国平均正答率をやや上回る。 ●記述式問題の平均正答率は、県及び全国平均正答率と同程度だが、「読んだ文章を理解し、知識や経験と結びつけて自分の考えを書く」ことは県及び全国平均正答率をやや下回る。 ●記述式問題において、無解答率が約1割～3割である。	□文章を読んで学んだことを、自分と照らし合わせることで考えを深め、それを明確に表現する言語活動を継続して行う。
数学	1年	○基礎及び活用の両問題については、全国平均正答率と同程度である。 ○「比と比例・反比例」では、全国平均正答率を上回る ●「整数の性質」では、全国平均正答率を大きく下回る ●記述式問題において、無解答率が約2～3割である。	□継続的に小テストなどの取組を行っていかなくて、特に式の計算の部分に力を入れる。
	2年	○基礎及び活用の問題については、全国平均正答率と同程度である。 ○「正の数・負の数」では、全国平均正答率を大きく上回る ●「データの分布の傾向」では、全国平均正答率をやや下回る ●記述式問題において、無解答率が約1割半～2割半である。	□「データの活用」でICTを活用したり、実生活と結びつけた教材選びを行い、生徒の興味関心を高めさせる。
	3年	○「データの活用」は、全国平均正答率をやや上回る。 ○「思考・判断・表現」の問題は、全国平均正答率をやや上回る。 ○2年時は「関数」領域で全国平均正答率をやや下回っていたが、3年時では全国平均正答率と同程度である。 ●記述式問題において、無解答率が約1割～3割である。	□継続的に小テストなどの取組を行っていかなくて、特に式の計算の部分に力を入れる。
英語	2年	○記述式問題の正答率が、2つの問題を除いて、全国平均正答率を大きく上回る。 ●記述式問題において、問題によっては約3割半の生徒が無解答である。 ●長文の読み取りは全国平均正答率を上回るが、必要な情報を読み取る問題は、他の問題と比べて正答率が低い。	□授業の中で、教科書の本文を活用して概要をつかむ言語活動に十分な時間をとり指導を行う。
	3年	○記述式問題の正答率が、県及び全国平均正答率を上回る。 ○読むこと及び書くことは、県及び全国平均正答率を大きく上回る。 ●記述式問題において、問題によっては約2～3割の生徒が無解答である。	□目的・場面・状況を踏まえて書く活動を充実させる。その際、何をどのように書くか(言語面と内容面の両方)をバランス良く指導する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話している生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○話し合いで、相手の考えをしっかりと聞き取っている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○昨年度(1年生時)は、学習を振り返る活動を毎日行っていたと思う生徒の割合が、市に比べて下回っていたが、今年度(2年生)の割合は市と比べて同程度だった。 ●授業中に「学習のめあて」が黒板などに示していると思う生徒の割合は、2年生で1年時に引き続いて、市に比べて大きく下回る。	・出雲市授業改善推進研究校(R4～R6)として、全校体制で授業改善に取り組む。 □教科部を中心とした授業参観と協議を行う。 □単元及び1時間単位のゴールを明確にし、それを生徒と共有する。 □自分の思いや考えを表現する言語活動の充実を図り、各教科の資質・能力の育成を図る。 □単元ゴールや本時の目標(めあて)を生徒と共有して(提示する等)授業に取り組む。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○自分で勉強の計画を立てて、勉強している生徒の割合は、全学年において全国に比べて大きく上回る。 ○自分で時間を決めて、テレビを見ている生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ●自主的な学習(辞書、参考書や問題集の活用)に取り組む生徒の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく下回る。	・定期テストに向けた取組 □学習計画を立て、その取組を振り返る機会を設ける。 □保護者にコメントもらい、家庭と連携して生徒を支援する。 ・「すこやかチャレンジ」の実施 □起床及び睡眠時刻、朝食の内容、メディア時間について、生徒自身が目標を設定し、振り返る週間を年4回設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○自己肯定感に関わる項目(自分のことが好き、自分が住んでいる地域が好き、自分は友だちから認められていると思う、自分は家の人から認められていると思う、自分は先生から認められていると思う)の割合は、1、2年ともに全国に比べて大きく上回る。 ○3年生は、将来の夢や目標をもっている生徒の割合が、県及び全国に比べて大きく上回る。 ●3年生は、今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合が、全国に比べて大きく下回る。	・総合的な学習の時間の充実 □地域のことを調べたり、自分たちができることを考えたりして、学校で学んだことが社会に役立つことを実感するような学習をする。 ・キャリア教育の充実 □特別活動や道徳をとおして、自己を見つめ、生き方を考える機会を多く設ける。 □キャリアパスポートをもとに、自己目標を設定し、振り返る時間を設ける。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第二中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

【全国学力調査:中3対象】
 ○すべての教科において全国平均正答率と同程度または上回っており、おおむね良好な状況である。
 ●数学において、関数領域の問題にやや課題が見られた。
 ●英語において、書く力を問う問題に課題が見られた。
 【市学力調査:中1・2対象】
 ○すべての教科の「基礎」及び「活用」問題において、全国平均正答率と同程度または上回っており、おおむね良好な状況である。
 ●記述式の問題について、英語と数学で一部課題が見られた。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○文章を書く問題の正答率が、全国平均を大きく上回った。 ●話の内容を聞き取り、適切な質問をする問題に課題が見られた。	□スピーチ等の話を聞く機会を設け、質問し合う活動を取り入れる。
	2年	○文章を書く問題の正答率が、全国平均を大きく上回った。 ●「漢字・文法」に関する問題に課題が見られた。	□授業の中で、漢字や文法に関する小テストを実施する。
	3年	○「漢字」や「歴史的仮名遣い」の正答率が全国平均を大きく上回った。 ●文章を整える問題にやや課題が見られた。	□様々な条件に沿って書く練習を取り入れる。
数学	1年	○「図形」と「変化の関係」の正答率は全国平均を上回り、「データの活用」は同程度であった。 ●「文字と式」の「文字の値」や「単位量あたりの大きさ」の問題において課題が見られた。 ●記述式の問題において、目標値と同程度であったものの、全国平均をやや下回った。	□文字式の計算や方程式などで基礎・基本の定着を図るために、小テストやグループワークを継続して行う。 □小グループなどで自分の考えや解法を発表し、記述する場を設ける。
	2年	○どの領域も良好な結果だったが、特に「数と式」と「データの活用」の正答率は全国平均を大きく上回った。 ●「関数」領域の比例・反比例の意味理解にやや課題が見られた。	□既習事項に結び付けながら、新たな性質や法則を見つける場面を意図的に組み込む。
	3年	○「図形」問題の正答率は全国平均と同程度であった。 ●「関数」領域の問題は全国平均を下回った。 ●各領域において、無解答の割合が高いことが課題である。	□問題演習に繰り返し取り組み、基礎・基本の定着を図る。 □自ら考え、解法を小グループ等で発表する場を設ける。
英語	2年	○英語を聞いたり読んだりして、必要な情報や話の概要を捉える問題の正答率は全国平均を上回った。 ●語形や語法の理解に課題が見られた。 ●与えられた話題について自分の考えを書く問題が全国平均を大きく下回った。	□授業内でALTやICT機器を活用し、様々な英語表現に触れる機会を確保する。 □授業内の帯活動や家庭学習を活用して、テーマに沿って自分の意見を英語で書く活動に継続して取り組む。
	3年	○短い文章の概要や要点を読み取る問題の正答率は、全国平均を大きく上回った。 ●「書くこと」領域が全国平均を大きく下回るとともに、無解答の割合も高く、課題が見られた。	□授業内でALTやICT機器を活用し、様々な英語表現に触れる機会を確保する。 □授業内の帯活動や家庭学習を活用して、テーマに沿って自分の意見を理由も添えて書く活動に継続して取り組む。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業で学んだことを他の教科で生かした」と感じている生徒が全国平均を大きく上回った。 ●勉強に辞書を利用している生徒の割合は約3割、パソコンの利用は約4割にとどまった。	□生徒が辞書やパソコンなどを活用しながら、発展的に学習できるよう、学習課題の内容を工夫する。 □授業公開等を通じて、タブレットPCの効果的な活用方法について情報交換する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で勉強の計画を立てて勉強している」について全国平均を大きく上回り、約8割の生徒が計画的に学習に取り組んでいる。 ●タブレットPCを学校以外で活用することに課題が見られた。	□個人用タブレットPCの活用について、授業内にとどまらず、家庭学習で積極的に活用する。 □職員研修等を通じて、タブレットPCの効果的な活用例を学ぶ機会を設ける。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と「日本やあなたが住んでいる地域のことについて外国の人にもっと知ってもらいたい」について肯定的な意見の割合が高く、郷土愛が高いことが伺える。 ●新聞や読書などの活字を読む機会が減っている。	□朝読書の取組を継続すると共に、朝終礼や集会等で時事ニュースを話題に取り上げる。 □図書委員会の活動として、おすすめの本を紹介したり、朝読書の声掛けをしたりする。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立第三中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生国語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 2年生国語の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 3年生国語の平均正答率は、『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』において全国を上回る。
- 1年生数学の平均正答率は、市、全国と同程度である。
- 2年生数学の平均正答率は、市、全国をやや下回る。
- 3年生数学の平均正答率は、『思考力・判断力・表現力等』において全国を上回る。
- 2年生英語の平均正答率は、市をやや上回り、全国と同程度である。
- 3年生英語の平均正答率は、県を上回り、全国と同程度である。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○平均正答率は全国平均、市平均ともに上回っている。 ○文章を書く内容については、全国平均を上回っている。 ○漢字を書く力は全国平均を大きく上回っている。 ●話を聞く力は、全国平均を下回っている。 ●説明的文章を読む力は全国平均を下回っている。	□話を聞き取る練習として、「話す聞く」内容の学習をしたときには、話す内容だけでなく、聞く内容の学習をする。 □説明的文章の単元の前には、学習用語の確認をしたり既習事項を確認したりして、復習をした上で新出内容を理解できるようにする。
	2年	○漢字を読む・書く内容については全国平均を上回っている。月例漢字テストの成果が現れている。 ○説明的文章・文学的文章を読み取る内容については、全国平均を上回っている。 ●文章を書く・報告する文章を書くという内容では、全国平均を下回っている。 ●単語を見つける問題が全国平均を大きく下回っている。	□月例漢字テストを継続し、漢字の読み書きの力を付けていく。 □文法の学習の達成度が低いので、タブレットドリルを活用し折に触れて復習する。また、新出事項については、単元に入る前に知識を整理したり復習したりする時間をとる。 □単元のレポートや授業の振り返りの仕方を工夫して、自らの考えを書かせる機会をつくる。
	3年	○『知識及び技能』については、すべての区分で全国平均を大きく上回っている。 ○『思考力・判断力・表現力等』では、「書くこと」「読むこと」が全国平均をやや上回っている。 ●「話すこと・聞くこと」については、全国平均と同程度であるが、本校の他の観点に比べて低い。 ●問題形式で見ると、選択式・短答式よりも記述式をやや苦手としている。	□授業において「話す聞く」の教材を学習するとき以外にも、自分の意見や振り返りを発表させる場面を設定する。 □単元のレポートや授業の振り返りの仕方を工夫して、自らの考えを書かせる機会をとる。
数学	1年	○全国平均とほぼ同程度である。 ●知識・技能では合同についての理解、比較量と割合から基準量を求めること、場合の数を求めることについて課題がある。 ●思考・判断・表現では、文字式の活用やいろいろなグラフの読み取りに課題がある。	□割合、合同、場合の数については、関連の学習に応じて復習を丁寧に行い、繰り返し練習しながら知識・技能の定着を図るような指導を行う。 □家庭学習ノートを活用して理解の定着を図る。個別指導を行うとともに主体的な学習に向かえるよう助言を行う。 □単元テストを行い、単元ごとの理解をしたり、復習をしたりする機会をもつようにする。
	2年	●全国、市平均と比較すると下回っており、活用や思考・判断・表現の差が大きい。 ●知識・技能の中で、同類項をまとめること、関数や比例のグラフをかきこと、ヒストグラムと階級の幅を読み取ることに課題がある。 ●思考・判断・表現では、方程式や比例の文章題、データの分布の傾向で根拠を選んだり、説明することに課題がある。	□文字式の基本となる同類項の計算を復習する、1次関数の単元で比例のグラフの復習をするなど、前年度の復習を交えながら知識・技能を確実なものにしていけるような指導を行う。 □めあてをもち、1時間の授業がまとまりのあるものとする。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認する機会をもてるようにする。 □学び直しの機会を意図的に設け、既習事項の定着を図る。
	3年	○全国平均と比較するとやや下回り、県平均ではやや上回っている。知識・技能では、県平均をやや上回っている。思考・判断・表現では、全国平均をやや上回っている。 ●知識・技能では、数と整式の乗法の計算、累積度数の意味の理解に課題がある。 ●思考・判断・表現では、文字式を使つての説明することや図形の証明問題の無解答率が高いことに課題がある。	□授業の最初に小テストを実施して、計算の技能の習熟をはかる。 □単元テストを行い、単元ごとの理解を確認したり、復習をしたりする機会をもつようにする。 □数学的な表現を用いて説明したり、証明したりすることに慣れるために、習熟度に応じて条件を変えて演習を行えるよう工夫する。
英語	2年	○全国平均とほぼ同程度である。基礎基本の内容や書くことの内容は全国平均を上回っている。特に並べかえや場面に応じて書く英作文、情報に基づいて書く英作文については市、全国を大きく上回る。 ●聞くことに関しては基本的な力はあるが、まとまりのある内容の聞き取りでは市、全国をやや下回る。要点を聞き取ったり、長い文章の内容を聞きながら理解することに課題がある。	□基礎基本を身につけるための学習を従来通り行う。 □タブレットドリルを活用し、家庭でリスニングの学習課題に取り組みさせる。 □単元からの読み取りやイラストを見るのではなく、聞いたことから自分の意見を書くような学習に取り組みさせる。 □英作文をする活動の中で、3文以上の作文や正確に書くといった活動をこれまで以上に設定する。
	3年	○①社会的な話題に関する短い説明の要点を捉える問題 ②状況を描写する比較的短い英文を読み、概要を選ぶ問題 ③事実や考えの書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題 ①～③では県、全国平均より上回る。 ●日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断し、必要な情報を読みとる問題は県を上回るが、全国を下回る。英文を読み、情報を整理し、英文の概要を読み取ることに課題がある。 ●日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題では、県、全国平均を下回る。まとまりのある英文を書くことに課題がある。	□基本的な語彙や熟語の復習をし、定着させながら長文を速く正確に読み取る練習をしていく。 □英文で読んだり、聞いたりした内容をまとめ、再構築させる力をつける。 □テーマに沿って、指定された語数で自分の意見を書く練習をしていく。 □家庭学習ノートを活用して理解の定着を図り、個別指導を行う。 □「主体的・対話的で深い学び」を大切にした授業を単元に厳選して取り組む。特に課題に対する結論をまとめる際など、他者と意見交換する場を積極的に設ける。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の割合が高い。 ○「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む。」の割合が高い。 ○「授業中のPC利用」「授業中PCで調べる。」の割合が高い。 ●「発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫する。」の割合が県、全国よりかなり低い。 ●「学習の見直しを次の学習につなげる。」「学習内容を他の学習に生かす。」の割合が高くない。	□課題解決における話し合いや学び合いの意義を理解し、意欲的に取り組める生徒の割合が多いので、それをいかに、深い学びにつながるような授業展開を工夫する。 □「総合的な学習の時間」をはじめとした全教科で、今以上にPCなどを活用した情報収集、情報活用能力を高め、自分の考えを発表する場面を増やす。 □授業の「ねらい」の提示と「ふりかえり」の実施を徹底し、自らの学びを、次の学習や他の学習につなげる意欲を高めていく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家で自分で計画を立てて勉強をしている。」の割合は県、全国と比較して高い。 ○平日の学習時間で1時間以上している生徒の割合は県より高く、全国より低い。 ○「各教科で学んだことをいかしながら、自分の考えをまとめる活動を行う。」の割合は低くない。 ●読書が好きな生徒の割合は6割と低くないが、授業以外の平日の読書時間で0分という生徒の割合は34.2%とかなり高い。	□生徒の実態に合った適切な学習課題を提供するとともに、家庭学習の内容が授業の理解につながることを意識して、授業改善を行う。 □望ましい学習習慣につながる学習方法を生徒の実態に合わせ、助言する。 □授業の中で、図書を通して学びが深まったり、自分の世界を広げたりする経験を積み重ねさせ、自ら図書に親しみ、活用をする意欲を高めていく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	●「地域や社会をよくするために何かしてみたい。」の割合が6割程度で、県、全国より低い。 ●地域の行事に参加している割合は2割程度で、県、全国より2割くらい低い。	□保護者やコミュニティセンター等地域の理解や協力のもとに、一層の連携を図る。「総合的な学習の時間」を中心に、地域資源「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、地域に貢献する意義を理解し、かつ意欲を高めるような学習活動を設定する。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立河南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

○3年生の学力調査では、国語・数学は全国や県の正答率を大きく上回る。
 ○1年生の学力調査では、2教科とも全国平均と同程度。
 ●2年生の学力調査では、3教科とも全国や県の正答率を下回る。
 ○2年生の学習状況調査では、「夜は、時刻を決めて寝ている」、「自分で時間を決めて、遊んでいる」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回る。
 ○1年生の学習状況調査では、「家の人から言われなくても進んで勉強している」、「自分で計画を立てて勉強している」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回る。
 ○3年生の学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回る。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」という生徒が全国平均を大きく上回る。
 ●全学年の学習状況調査で、「地域の行事に参加している」という項目で、肯定的な回答が全国平均を下回る。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」の領域は全国平均を大きく上回る。情報を読み取り正しく活用する力や、相手に自分の思いを伝える力は育っていると考えられる。 ●「話すこと」、「聞くこと」、「読むこと」の領域は全国平均と同程度であるが、「文法・語句に関する事項」が全国平均を大きく下回る。このことから、漢字や文法を正しく覚える正しい場面で使う力や、聞いた話の中から重要な部分を取り出し、会話などで活用する力に課題があるといえる。	□文法事項については、繰り返し問題に取り組むことで定着を図る。 □グループ学習やペア学習など、人とのやり取りを増やすことで、自らの知識を確認・定着させ、相手に伝わる話し方を考えさせる。また、作文を書いたり、体験をもとにスピーチをしたりする活動を通して、相手の発言の重要な部分を読み取る機会を増やす。
	2年	○「情報の扱い方に関する事項」、「読むこと」の領域は、全国平均と同程度である。 ●「漢字を書く」、「文法・語句に関する事項」、「文章を書く」の問題が全国平均を大きく下回る。このことから、言葉の知識や語彙、文章構成力の不足のため、自分の考えを適切な言葉で分かりやすく表現することに課題があるといえる。	□語彙を豊かにするために、漢字の読み書きをはじめとする言語に関する学習時間を確保したり、言葉に関する知識を紹介したりする。また、漢字テストに向けての学習を通して、自分なりの漢字練習方法を身につけられるようにする。既習の文法事項においては繰り返し学習することで定着を図る。 □学習した言葉や新出漢字を使って作文するなど活用する機会を増やす。
	3年	○「知識及び技能」の領域の「言葉の特徴や使い方」、「我が国の言語文化に関する事項」、「思考・判断・表現」の領域の「話すこと・聞くこと」は、全国平均を大きく上回る。 ●「思考・判断・表現」の「書くこと」については、「自分の考えを根拠をもとに書く」問題は正答率が高いが、「読み手を意識して、叙述の仕方を確認し、文章を整える」問題は、正答率が低い。自分の思いを書く力は育っているが、より相手に伝わりやすいように推敲する力を育てることが課題だと考えられる。	□語彙の習得に関しては、継続して漢字や文法など言語に関する学習を繰り返し行ったり、言葉に関する知識を紹介したりする。 □モデルを提示し、それに倣って表現するような学習では、グループ学習やペア学習を行い、相手の発言や表現を参考にしながら自分の考えを再構築する活動を行う。また、具体的な表現の仕方を習得できるよう、ワークシート等の個別添削丁寧に行う。
数学	1年	○「数と計算」、「図形」、「変化と関係」の領域は、全国平均と同程度である。 ●問題別では、「単位量あたりの大きさ」「平均・場合の数」における正答率が全国平均をやや下回っており、小学校の既習事項を丁寧に振り返る必要がある。	□図形やデータの活用については、小学校の既習事項の学び直し力を入れ、その上で中学校での新たな内容も習得できるようにする。 □小学校や1学期の既習事項の計算などを定期的に復習し、基本的な技能の定着に力を入れる。また、授業の中で学び合いや自分の考えを表現する活動を行い、活用できる力の習得をめざしていく。
	2年	○「データの活用」の領域は、全国平均と同程度である。 ●問題別では、「比例・反比例」、「角の二等分線の作図」、「立体の体積」についての問題の正答率が、全国平均を大きく下回る。特に、「比例・反比例」を含む「関数」の領域については基礎の定着を図る必要がある。	□関数については、小学校や中学1年時に学習した比例反比例の内容を振り返り、基礎学力の定着を図るとともに、2、3年時に新たに学ぶ関数への理解を深めていけるようにする。 □単元末では、章末問題を使って単元の基礎内容を振り返るとともに、活用問題に取り組む時間を確保し、基礎の定着を図る。
	3年	○全国平均を大きく上回る。特に「関数」、「データの活用」の領域で全国平均を大きく上回る。 ●問題別では、「自然数」、「空間における平面が1つに決まる条件」、「累積度数」についての問題の正答率が、全国平均を下回る。また、説明する問題において無解答率が高く、「思考・判断・表現」を伴う問題に課題があるといえる。	□授業において、自分の考えを表現したり(ノートに記述する、相手に考えを伝える)、学び合いをしたりする機会を増やす。 □1、2年時に学習した内容については、授業中に定期的に復習をする。式の計算や方程式などの基本的な技能の習得はできているため、それを応用できるよう、根拠となる規則を意識させる課題や発問を準備したり、与えられた条件を整理し筋道を立てて考えさせたりする指導を行う。
英語	2年	○リスニングにおいて、「さまざまな英文の聞き取り」は全国平均をやや上回る。 ●問題別では「場面に応じて書く英作文」や「3文以上の英作文」、「長文の読み取り」などで全国平均を大きく下回り、「思考・判断・表現」の観点の、基礎基本を応用して書いたり読み解いたりすることに課題があるといえる。	□適切な場面設定を行い、まとまった英作文を書く練習を取り入れる。 □文法や単語習得のみで終わらず、それらを用いて「話すこと(やり取り)」の活動や、「聞いて書く」などの技能統合の活動を授業の中で適宜行うことで、言語活動を充実させ、生徒が思考・判断・表現する力を育成していく。
	3年	○「聞くこと」の領域の、「情報を正確に聞き取ること」は全国平均を上回る。「読むこと」の領域の、「短い文章の要点を捉えること」が全国平均を大きく上回る。 ●「書くこと」の領域は、全体的に全国平均を下回る。読んだことや、事実について自分の考えを整理し、まとまりのある英文を書くことに課題があるといえる。	□文法や単語の正しい使い方を授業で適宜確認して定着を図ったり、各単元で「書く」活動を取り入れたりする。 □まとまりのある英文を書く活動において、新出事項や既習事項を用いた様々な表現が盛り込まれ、生徒に考えさせる機会を設定したりし、表現の幅を広げることができるようになる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○3年生では「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」という項目で、「当てはまる」の回答が全国平均を大きく上回り、一人ひとりの意見が尊重される環境が醸成されていると考えられる。 ●2年生の英語に関する項目で、「『英語検定』の勉強をしている」生徒や「新出単語の発音やつづりを覚えるための練習をしている」生徒の割合、1、2年生の数学に関する項目で「計算や図形を使ったパズルで遊ぶことがある」生徒の割合が全国平均を大きく下回る。	□各教科で適宜グループ活動等を取り入れ、ソーシャルスキルや自己肯定感を高められる活動を引き続き行うことで、一人ひとりが主体的に学習に臨める場を設定する。 □各教科において、生徒が興味・関心をもちやすい方面から教科の魅力伝えたり、ICT機器なども効果的に用いて、一人ひとりが効果的に学習に向かえる課題や宿題を課す。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○全学年とも基本的な生活習慣がおおむね身につけている。 ○全学年の「家で自分で計画を立てて勉強している」という項目、1、2年生の「家の人から言われなくても進んで勉強している」という項目で肯定的な回答が全国平均を上回っており、家庭学習の習慣がおおむね身につけていると考えられる。 ●1、2年生は、「勉強に辞書や参考書、問題集を利用している」という項目や、「新聞記事を読んでいる」という項目で肯定的な回答が全国平均を大きく下回る。分からないことを自分で調べようとしたり、進んで情報を得たりしようとする生徒の割合が少ないと考えられる。	□委員会活動等で生活習慣のチェックを行ったり、メディアに関する講演会を行ったりすることで、生徒の基本的な生活習慣の一層の充実を図る。 □放課後等を利用して、生徒が主体的に学習できる場を確保する。 □各教科で、生徒が興味・関心を抱き、自ら考えたり、調べたりするなど、主体的に学習できるような宿題や課題を課す。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生で、「家の人と決めた約束やきまりを守っている」、「出かけるときは、家の人に行き先を言っている」生徒の割合が全国平均を大きく上回り、家庭でしっかりコミュニケーションを取っていることがうかがえる。 ●全学年で、「地域の行事に参加している」という項目で、肯定的な回答が全国平均を下回る。しかし3年生の「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」という項目で肯定的な回答が全国平均と同程度であることから、地域に貢献したい気持ちはあるが、それを行動に移せていない生徒が多いと考えられる。	□総合的な学習の時間を工夫することにより、生徒のふるさとへの愛着を深め、主体的に地域へ貢献したいという意欲を高められるようにする。特に、本校が力を入れている防災・減災学習で学んだことを地域に発信する活動を行う。 □地域の清掃活動や行事など、生徒が意欲的に参加できるものについて、積極的に情報提供を行ったり、参加を促したりする。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立浜山中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年国語は、全国平均正答率を上回っている。2年国語・数学は、全国平均正答率をやや上回っている。
- 「思考・判断・表現」の正答率において、1年国語・数学、2年国語で全国を上回っている。
- 「勉強するときは、集中して勉強している」の項目についての肯定的な回答が、1、2年ともに全国平均を大きく上回っている。
- 3年国語・数学・英語において、全国平均正答率を大きく下回っている。
- どの学年もどの教科においても、記述式の問題の無解答率が高い。
- 「地域の行事に参加している」の項目についての肯定的な回答が、全国平均を下回っている。
- 「勉強に図書館を利用している」「勉強に辞書を利用している」の項目についての肯定的な回答が、全国平均を大きく下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○漢字の読み書きに関する問題は、全国平均正答率を上回った。 ●意図に応じて話の内容を捉え、適切な質問をする問題の正答率が低い。 ●文章を書く問題において、無解答率が高い。	□漢字の読み書きにおいては、全校で行っている基礎力テスト(漢字)や授業での小テストを継続していく。 □意図に応じて話の内容を捉える力がつよ、物語を聞いて要点を問う「聞き取り問題」といった学習活動に取り組み。 □作文に抵抗をなくすため、書く活動を積極的に取り入れる。
	2年	○文学的文章の読解では、登場人物の心情を捉えたり、表現の効果について考えたりする問題で全国平均正答率を大きく上回った。 ●単語の問題は全国平均正答率を大きく下回った。 ●文章を書く問題において、無解答率が高かった。	□漢字の基礎力テストや授業での小テストを継続していく。 □授業で文法の学習に入る時に既習事項の復習をしたり、習熟度テストの範囲になった部分の問題演習を取り入れたりしていく。 □文章を書くことに対する抵抗をなくすために、授業の中で積極的に書く活動を取り入れる。
	3年	○「読むこと」の問題の中の、表現の効果について考える問題の正答率が全国平均正答率を上回っている。また、文章を読んで理解したことを知識や経験と結びつけ、自分の考えを書く問題の正答率は全国平均正答率と同程度であった。 ●漢字を正しく書く問題、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題において、全国平均正答率を大きく下回った。	□基礎的な知識の定着を図るため、漢字の小テストや基礎力テストを行う。また、日々のワークシートや振り返りシートで学習した漢字を使うように指導していく。
数学	1年	○面積と体積に関する問題と小数・分数の計算に関する問題は、全国平均正答率を上回った。 ●百分率の問題では、全国平均正答率を大きく下回った。 ●2つのグラフを読み取り比較する問題では正答率が低かった。	□数学术語の意味の理解を徹底させ、話し合い活動などで積極的に学習した数学术語を使うことで定着を促す。 □図・グラフ・式・言葉それぞれ関連付けて説明できるように、それぞれが何を表しているのか自分の言葉で説明できるような場面を設定する。
	2年	○ほとんどの項目で、全国平均正答率を上回った。特に、文字式の減法、平面図形の作図問題では全国平均正答率を大きく上回った。 ●データの活用問題は全国平均正答率を下回った。	□小テストを継続していく。 □データの活用の単元は、単元テストを実施する時期を工夫し、学習の定着を試みる。
	3年	○計算問題では昨年度と比べ正答率が高くなり、基礎学力は定着してきた。 ●どの問題でも、全国と比較して無解答率が高かった。 ●成り立つ事柄や事柄が成り立つ理由を記述する問題において全国平均正答率を大きく下回った。	□小テスト、単元テストなどを行い、基礎学力を身に付けていく。 □成り立つ事柄や事柄が成り立つ理由の書き方などを指導し、応用問題にも日ごろから取り組んでいく。
英語	2年	○英作文の問題の中でも、単語の並べ替えによる作文、場面にに応じて書く英作文、情報に基づいて書く英作文などの、与えられた条件を満たすような英作文で全国平均正答率を上回った。 ●内容理解のリスニング問題や語彙の知識理解の問題で、全国平均正答率を下回った。 ●自由英作文の問題において、無解答率が高かった。	□単語テストや文型テストを継続していく。 □授業をできるだけ英語で行い、ALTと連携をとりながら英語を耳にする機会を増やす。 □自由作文を書く活動を積極的に取り入れる。
	3年	○日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題では、全国平均正答率を上回った。 ●日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題では全国平均正答率を下回った。 ●社会的な話題を読み、考えとその理由を書く問題では全国平均正答率を大きく下回った。	□単語テストや文型テストを継続していく。 □英文を書くことに対する抵抗をなくすため、授業の中で積極的に書く活動を取り入れる。 □テーマに沿って自分の考えやその理由などを整理し、ある程度まとまりのある文章を書く活動を増やす。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」という質問へは多くの生徒が肯定的な回答をしている。	□各教科等の「学び合い」や学級活動での話し合い活動を積極的に取り入れ、課題解決型の授業を展開する。 □「キャリア・パスポート」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返りする機会を設ける。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○各教科において「授業で習ったことを復習している」「宿題をきちんとしている」との回答が多く、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。 ●「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強しますか」という質問に対して「30分くらい」か、それ以下という回答が多く、予習をするなど自ら進んで学習に取り組んでいる生徒は少ない。	□家庭学習の充実と生活習慣の見直しを、学校と家庭で連携して継続して行う。 □課題の出し方を工夫したり、授業と家庭学習に連続性をもたせたりするなど、生徒が自分に合った勉強方法を確立できるよう取り組み方をアドバイスする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答している生徒の割合が全国平均より高い。 ●「本を読んでいる」「新聞記事を読んでいる」と回答している生徒の割合が全国平均より低い。社会に関心をもって関わろうとする意識に課題がある。	□地域学校運営理事会やPTA等との連携を密にし、子どもたちが地域の中で活躍する場を設ける。 □学校図書館や廊下などに生徒が新聞を手に取りやすい環境を作る。生徒会活動の中で生徒が時事問題に関心をもつような取組を継続して行う。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立南中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>【出雲市学力調査の結果】</p> <p>○1年生の国語の正答率は全国・出雲市の平均正答率と同程度だった。数学の正答率は全国・出雲市の平均正答率を大きく上回っていた。</p> <p>○2年生の国語の正答率は全国・出雲市の平均正答率と同程度だった。</p> <p>●2年生の数学・英語の正答率は全国・出雲市の平均正答率を大きく下回っていた。</p> <p>【全国学力調査の結果】</p> <p>○3年生の国語の正答率は島根県・全国の平均正答率を大きく上回っていた。</p> <p>○3年生の数学の正答率は島根県の平均正答率を大きく上回っており、全国の平均正答率と同程度であった。</p> <p>○3年生の英語の正答率は島根県の平均正答率を大きく上回っており、全国の平均正答率と同程度であった。</p>

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」は県、全国の平均正答率を上回っている。 ●「話すこと・聞くこと」は県、全国の平均正答率を下回り、「書くこと」は全国平均は上回るが、県平均よりは低い。 ●「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「読むこと」は県、全国の平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い学習」を通して、自分の考えを伝え、深めていく授業を設定し、教材内容について深く読み込む力の伸長をめざす。 □文章や図から情報を読み取ったり、情報と情報の関連について考えたりする課題や、考えた内容を文章にまとめる課題に取り組むことによって情報の扱い方に慣れていけるよう指導する。 □漢字や語句に関する学習は繰り返し学習を通し、定着を図る。
	2年	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」は県、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ○「我が国の言語文化に関する事項」は全国の平均正答率と同程度である。 ●「書くこと」は県、全国の平均正答率を下回り、「読むこと」は大きく下回っている。	□今後も「学び合い学習」を通して、自分の考えをもちながら学習に臨む態度の涵養をめざしていく。 □著者の主張についての考えをまとめたり、教材内容について自分の意見や感想を書いたりする時間を設定し、「読むこと」の力の伸長をめざす。 □漢字や語句に関する学習は繰り返し学習を通し、定着を図る。
	3年	○「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で島根県、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」は島根県、全国の平均正答率をやや下回っている。	□今後も「学び合い学習」を通して、学習内容が深まるよう努める。 □課題探究的な授業方法を取り入れ、主体的に学習に向かう態度の涵養をめざす。 □漢字や語句に関する学習は繰り返し学習を通し、定着を図る。
数学	1年	○全領域、観点とも全国、市の平均正答率を上回っている。 ○特に領域「数と計算」「データの活用」、観点「知識・理解」「主体的に学習に取り組む態度」は全国、市の平均正答率を大きく上回っている。 ●正答率度数分布の範囲が大きい。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □「レディネス課題(次の授業の予習になるような課題)」を活用し、家庭学習の習慣づくりを図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。
	2年	○「正の数・負の数」は市の平均正答率とほぼ同程度、「空間図形」は目標値とほぼ同程度である。 ●「数と式」「関数」「データの活用」領域では、全国、市の平均正答率を大きく下回っている。 ●「文字式」「比例・反比例」「平面図形」「データの分析の傾向」では、全国、市の平均正答率を大きく下回っている。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □「レディネス課題(次の授業の予習になるような課題)」を活用し、家庭学習の習慣づくりを図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。 □確認テストを行い、基本的な内容の定着を図る。
	3年	○「関数」領域は、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ○「思考・判断・表現」観点、「記述式」解答形式は全国の平均正答率を上回っている。 ●「データの活用」領域は全国の平均正答率をやや下回っている。	□「学び合い」学習を通して、さらに学習内容の定着と向上を図る。 □「レディネス課題(次の授業の予習になるような課題)」を活用し、家庭学習の習慣づくりを図る。 □自学ノートへの取組を通して、個々の学習への取組状況を把握し、個別に指導が必要な生徒への支援を行う。
英語	2年	○「聞くこと」における「さまざまな英文の聞き取り」では、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●教科の正答率では、「基礎」が全国の平均正答率を大きく下回っている。 ●領域別の正答率では、「聞くこと」及び「書くこと」が全国の平均正答率を大きく下回っている。	□全国の平均正答率と同等の「読むこと」における語彙の知識・理解を活用する言語活動を行う。 □「話すこと」と「書くこと」を統合する言語活動を行う。 □「聞くこと」や「読むこと」における概要をとらえる力(例:英文に合う適切な絵を選ぶ力)を伸ばしながら、要点をとらえる力(例:空所に適する英文を選ぶ力)を細やかに指導する。
	3年	○「聞くこと」における「正確に聞き取る」及び「読むこと」における「必要な情報を読み取る」「書くこと」における「依頼する表現を正確に書く」では、全国の平均正答率を大きく上回っている。 ●「聞くこと」における「必要な情報を聞き取る」「要点を捉える」及び「読むこと」における「要点を捉える」では、全国の平均正答率を大きく下回っている。	□「話すこと(やり取り)」を中心とする言語活動を通して、瞬発的に話し手の考えを理解し、尋ねたり応答したりするできるよう指導する。 □「聞くこと」と「書くこと」を統合した言語活動を通して、英文の要点を捉え、筆者の意図や話題の中心的な内容を深く理解することができるように指導する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○話し合いで、自分の考えを積極的に話している」「話し合いで相手の話をしっかり聞き取っている」という生徒の割合が高い。 ○「問題を解くときは、解いた方法が使えるかどうか考えている」という生徒の割合が高い。 ●「勉強にパソコンを利用している」という生徒の割合が全国に比べて低い。	□全職員で授業研究を行い、授業改善を進めていく。 □ICT機器の活用方法を工夫し、生徒の情報活用能力を高める。 □生徒が主体的に取り組める授業、学校行事、生徒会活動等を行い、言語活動の充実を図る。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「家庭で、進んで勉強する」「勉強する場所を決めている」「集中して勉強している」という生徒が、ほぼ100%で、全国平均を大きく上回っている。 ○「参考書や問題集などを使って勉強している」という生徒が85%以上で全国平均を大きく上回っている。 ●家庭での学習習慣はおおむねついていると考えられるので、主体的な学びに結びつく家庭学習の仕方を工夫していく必要がある。	□「レディネス課題(次の授業の予習になるような課題)」を取り入れ、授業と家庭学習の関連を図り、主体的な学習習慣づくりを進める。 □校区内の小中学校で行っている「あいさつ」「履き物そろえ」の徹底を図り、地域の方と進んで関わる意識を育てる。 □タブレットを使った家庭学習課題を工夫する。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分の地域が好きである」という生徒の割合が90%を超え、全国に比べて高い。 ○地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある生徒の割合が全国、出雲市に比べて高い。	□「ゴミゼロ運動」「職場体験学習」「しいたけ植菌活動」などの活動を通して、地域の人、こと、ものを知る活動を続けていく。 □校区内の小中学校で行っている「あいさつ」「履き物そろえ」の徹底を図り、地域の方と進んで関わる意識を育てる。 □校区内の地区民体育大会や文化祭等、行事への参加を推奨する。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立平田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 生徒質問紙の回答から、ほとんどの生徒が学校が楽しいと回答しており、友人関係も良好である。
- 家庭での生活習慣に関する調査の回答から、規則正しい生活を送っている生徒が多い。
- 家庭での学習習慣に関しては、計画的に学習を進めていると回答している生徒が多かったが、家庭学習にかかる時間が全国平均、市平均に比べて少ない。
- 授業への取組に関して、ほとんどの生徒が教師の話をしっかりと聞き、ノートもきちんととっており、良好である。
- 各学年とも、国語、数学において正答率が全国平均、市平均と同程度、またはやや上回っており、良好な状況である。
- 2年生、3年生ともに英語の正答率が全国平均、市平均を下回っている。3年生の意識調査においても、英語が好きだという生徒の割合が全国平均、県平均を下回っており、課題が見られる。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体の正答率は、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。 ○基礎の部分では、市平均、全国平均を上回り、活用の部分では市平均を上回り、全国平均とはほぼ同程度であった。 ○言葉の特徴や使い方に関する事項や情報の扱い方に関する事項が市平均、全国平均を上回り、特に漢字を書く問題は市・全国平均を大きく上回った。毎時間の漢字練習等が力の伸長に繋がったと考える。 ●書くこと、特に報告する文章を書くことの正答率が市平均を下回った。	○毎時間の漢字テスト等の漢字の学習については今後も継続的にやっていく。 ○ワークシート等を利用したり、様々な思考ツール等を利用したりしながら、根拠や客観的な分析に基づいた文章を書く学習を重視する。
	2年	○全体の正答率は、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。 ○基礎の部分では、市平均、全国平均をやや上回り、活用の部分では市平均を上回り、全国平均を大きく上回った。 ○授業の中で書く活動を重視したり、学習の内容をポートフォリオに残したことが、文章を読み取ったり、書いたりする力の伸長に繋がったと考えられる。 ●話し合いの内容を聞き取るという点で、市平均、全国平均をやや下回った。	○毎時間の漢字や文法の小テストを今後も継続して行う。 ○ペア学習、グループ討議を授業に取り入れるとともに、話し合いの進め方の指導を行う。
	3年	○全体の正答率は、県平均、全国平均と同程度であった。 ○我が国の言語文化に関する事項において、県平均、全国平均ともに大きく上回った。 ●言語の特徴や使い方に関する事項において、全国平均とは同程度であったが、県平均は下回った。 ●問題形式として、短答式・記述式は県、国平均と同程度であったが、選択式で全国平均をやや下回った。これは、言語の特徴や使い方に関する事項との関連から、語彙力に課題があるものと考えられる。	○継続して古典的文章の学習を行う機会を設ける。 ○辞書を引く時間を継続して設ける。 ○短作文を作る学習を丁寧に行い、様々な言葉に触れる機会を設ける。
数学	1年	○全体の正答率は、市平均をやや上回り、全国平均を上回った。 ●問題の内容別に見ると、整数の性質に関する問題の正答率が全国平均を大きく下回り、6割程度であった。	○整数の性質に関する本調査の問題数は2問であったため、学力調査のフォローアップシートを活用し、生徒の理解度、つまづきについて確認する。
	2年	○全体の正答率は、市平均、全国平均とはほぼ同程度であった。 ●関数と比例・反比例、平面図形は正答率が低かった。 ●おおむね知識は身につけているが、文章問題や文章表現に苦手意識がみられる。	○授業の中で、問題演習に取り組む時間を確保し、意欲的に解く態度を身につけさせる。 ○知識を活用する問題を提示していく。
	3年	●全体の正答率は、下位層はやや少ないが、中の下が多く、中の上と上位層がやや少なかった。 ○各単元の正答率は、全国平均と同程度であった。 ○記述の問題の正答率がわずかではあるが、全国を上回っているのは、これまでの取り組みの成果とみてよいかもしれない。	○中位の生徒が解きたいと思う課題の与え方を工夫する。 ○授業の中で、問題演習に取り組む時間を確保し、意欲的に解く態度を身につけさせる。 ○記述式の問題を解かせることを引き続き行う。
英語	2年	○語彙の知識・理解における選択問題は全国と同程度であった。 ●図表を見ての聞き取り、対話文の応答(チャイム後の文選択)において課題がある。 ●設定された内容について、具体的な説明を加えて書くことに課題がある。	○資料(図表・グラフ等)の聞き取り練習、場面に応じた適切な応答練習の機会を設ける。 ○小テストを定期的に行い、語彙・文法・語順の定着を図る。
	3年	○知識・技能の「読むこと」は全国、県ともにやや上回っており、長文のおおまかな内容を読み取ることが出来る。 ●聞き取りの内容にあった図表・グラフを選択する問題に課題がある。 ●読んだ内容を自分で整理し、図表などにまとめられたものと照らし合わせることに課題がある。 ●書く内容は思い浮かぶが、その内容を表現する英語を書くことに課題がある。	○資料(図表・グラフ等)の読み取り練習、聞き取り練習を増やす。 ○自分が伝えたいことを英語で表現し、「できた」という経験を増やすとともに、英語への興味・関心を高める。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○ほとんどの授業で「めあての提示」がなされ、学習を通して身につけるべき資質・能力が明確にされている。 ○自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりして、自分の考えを深めることができた生徒が多かった。 ○ICT機器の活用が進められてきた。 ●学年が進むにつれて、学習が好きでなくなったり、授業の内容がわからなくなったりする生徒の割合が高くなっている。	○出雲市授業スタンダードに沿った授業を進めていく。 ○主体的・対話的で深い学びをめざすために1人1授業を行い、教師個々の授業力を高める。 ○生徒の理解度やつまづきを確認し、全体の支援、個の支援を行っていく。 ○ICT機器の活用について、機会をとらえて職員研修を行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○計画的に家庭学習を進めていると回答している生徒の割合が高い。 ○授業で学習した内容について家庭で復習している生徒の割合が高い。 ●家庭学習で授業の復習はできているが、予習をしているという生徒の割合は低い。 ●家庭学習にかかる時間が全国平均、県平均と比べるとやや少ない。	○学年はじめの学習ガイダンス、各教科の授業の中で学び方の指導を行う。 ○各教科で学習内容の定着を図る家庭学習の課題を出す。 ○生徒の理解を助け、学びを深めるための予習課題を出す。 ○学習計画づくりとそのふり返りを通して、家庭学習にかかる時間を増やせるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○地域に愛着をもち、地域の行事に参加している生徒の割合が高い。 ○地域の一員として社会や地域をよくしているという生徒の割合が高い。	○地域社会や人々との関わりを通して、地域の一員としての自覚を高め、自分の生き方を考える学習を展開する。(総合的な学習の時間、学校行事等)

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立向陽中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生の国語は、市、全国の平均正答率を大きく下回った。
- 1年生の数学は、市、全国の平均正答率を大きく下回った。
- 2年生の国語は、市、全国の平均正答率を上回った。
- 2年生の数学は、市、全国の平均正答率を上回った。
- 2年生の英語は、市、全国ともに平均正答率と同程度だった。
- 3年生の国語は、市、全国の平均正答率を大きく上回った。
- 3年生の数学は、市の平均正答率をやや上回り、全国の平均正答率と同程度だった。
- 3年生の英語は、市の平均正答率をやや上回り、全国の平均正答率と同程度だった。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「知識・技能」のうち、漢字の読み書きや、言語文化に関する正答率が高い。 ●全領域で全国平均・市平均を下回る正答率となっている。 ●領域では、特に「書くこと」に課題があり、記述の正答率が全国平均を下回っている。	□「書くこと」において、短文を要約したり課題作文をしたりする機会を増やす。また、その作文を個別に添削する。 □基礎的な知識・理解の定着を図るため、単元テストを実施し、テストの解説を丁寧にを行う。また、基礎的な小テストを継続して行う。 □自分の考えとその根拠を記述する学習を継続して行う。また、その記述内容を、個別に添削する。
	2年	○全領域で概ね全国平均・市平均を上回っている。なかでも、「文法・語句に関する知識」については、全国平均・市平均を上回る正答率となっており、正しい知識が身につけている。 ●「文章を書くこと」に課題がある。	□授業やテストにおいて、条件に応じた作文を書く機会を増やす。 □書く活動において、自分の考えと根拠を明確にして記述をする活動を行う。また、作文を個別に添削する。
	3年	○全国・県に比べて、「思考力、判断力、表現力等」で、平均正答率が大きく上回っている。 ○全国・県に比べて、特に「読むこと」の領域で、平均正答率が大きく上回っている。文章の構成や展開、表現の効果について読み取り、根拠を明確にして書くことができている。 ●文脈に即して、漢字を正しく書く正答率がやや低い。	□書く活動において、時間を設定し、課題作文を行う学習を定期的に行う。また、作文を個別に添削する。 □基礎的な知識・理解の定着を図るため、継続して小テストを実施する。
数学	1年	●全領域で全国・市平均を下回る正答率となっている。 ○領域では、「図形」に関する学習に強みがある。 ●文章問題を読み取ること、2つ以上の領域にまたがる問題の解決に課題がある。 ●領域では「データの活用」、観点では「知識・技能」に課題がある。	□基本的な知識の復習を多く取り入れながら、文章問題を解く場面を少しずつ設定していく。 □基礎的な内容を中心とした単元ごとのテストを、定期的に行う。 □記述式の問題を出題していく。
	2年	○全領域でほぼ全国・市平均と同程度となっている。 ○「データの分布と活用」において、累積度数や範囲、階級の幅等、基本的な知識を理解して解くことに強みがある。一方で、「データの分布と活用」では、資料全体の中でのデータの位置を根拠を述べて判断することや、ある傾向が強いと判断できるデータの読み取りに課題がある。 ●領域では「比例・反比例」、観点では「思考・判断・表現力」に課題がある。	□データの分析と活用の領域において、相対度数折れ線グラフを用いて、基本的な知識を復習し、データを読み取り、根拠を述べて傾向を説明する課題を設定する。 □図形、関数の領域では、基本的な知識、技能を復習する学習をする。また、根拠となる事柄を、数学的な用語を用いて説明する課題を設定する。
	3年	○全領域でほぼ全国・市平均と同程度か上回っている。 ○「関数」「データの活用」の領域では、グラフや資料の特徴を読み取り、立式をしたり、説明したりすることに強みがある。 ●領域では、「数と式」での計算に少し課題がある。	□数と式、図形の領域では、基本的な知識、技能を復習する学習をする。 □他教科と連携した課題を設定し、既習した内容が、身近な生活場面で役立つこと、利用されていることに興味をもつことができるようにする。
英語	2年	○全領域で概ね全国平均・市平均と同程度となっている。 ●「聞くこと」に関する領域では、市平均とは同程度だが全国平均をやや下回る正答率となっている。特に対話の内容を聞き取り、適切に応答することや、英文を聞き取り、その内容に対して自分の考えを英文で書くことに課題がある。	□対話の流れをふまえて適切に応じる力を伸ばすために、即興でやり取りをする活動を増やす。 □授業やテストにおいて、英文を聞き取り、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で書く機会を増やす。
	3年	○全領域でほぼ全国・県・市平均を上回っている。 ○まとまった英文を読み取る力が全国・県・市平均を大きく上回っている。 ●自分の考えでまとまりのある英文を書くことに課題が見られる。 ●自分の考えを即興で話すことに、十分に対応できていない。	□自分の考えをまとまりのある英文で書く活動を、学習活動の様々な展開の中を導入する。 □自分の考えを即興で話して伝え合う学習活動を、より計画的・継続的に導入する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「困っている人の手助けをしている」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、話し合い活動でも、協力して学び合う活動ができている。 ○「自分は、友だち・先生・家の人から認められていると思う」「自分のことが好きである」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っており、学校・家庭から認められているという意識をもつ生徒が多い。 ●授業でのICT機器の使用頻度が少ない状況が課題である。	□授業において、効果的な「めあて」を提示し、授業の「振り返り」では生徒の理解の把握に努め、次の学習に生かすことのできる授業づくりをしていく。 □授業において、個人思考の場面やペア・グループ活動の場面を工夫し、個々の学びを深める学習を進める。その際、考える視点をはっきりと提示し、対話的で深い学びになるような授業づくりをしていく。 □教員の指導力向上のため、教員同士の授業互見、研究授業の実施、ICT機器活用のための研修・実践共有を行う。
(2) 主体的な学習に結びつく家庭学習の充実	○「勉強するときは、集中して勉強している」「家の人から言われなくても、進んで勉強をしている」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を大きく上回っており、家庭学習を主体的に取り組むことは概ねできている。 ○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」と肯定的に回答した割合が、全国の割合を上回っている。 ●参考書や問題集、辞書、タブレットを利用して家庭学習をしている生徒は、全国の割合を下回っている。	□各学年で行っている自学ノートの取組や定期テスト前の学習計画書の活用を継続し、家庭学習時間の確保、学習の質の改善を図る。 □各教科で、家庭学習での課題を継続的に出し、学力の定着を図る。また、課題の内容の工夫に努める。 □授業においても、参考資料や辞書やタブレットを活用するなど、調べて学びを深める学習活動を継続して行う。 □キャリアパスポート等を通じて自己理解を深め、学習への意欲を高められるようにする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「住んでいる地域が好きである」「地域に貢献したい」と肯定的に回答した生徒の割合が、全国の割合を上回っている。 ○「学校での出来事を、家の人に話している」「家の人と決めた約束やきまりを守っている」「家の人に挨拶をしている」「家の人と一緒に食事をとっている」と肯定的に回答した生徒が、全国の割合を上回っており、家庭のコミュニケーションが図られている。 ●「地域や社会をよくするために何をしたらよいか考えることがある」と回答した生徒は、市の割合をやや下回っている。	□総合的な学習の時間や学校行事等を通して、地域についてより深く学ぶことができる学習活動を推進する。 □ホームページや、学校・学年だより等を通して、地域や保護者への情報発信を積極的に行う。 □学校外においても、地域の方々に気持ちのよい挨拶ができるように継続して指導していく。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立佐田中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生の平均正答率は、国語は全国や市をやや下回り、数学は全国、市をやや上回った。
- 2年生の平均正答率は、国語、数学は全国や市を大きく上回り、英語は全国、市と同程度である。
- 3年生の平均正答率は、国語は全国や県を大きく上回っている。数学は大きく下回り、英語は全国や県と同程度である。
- どの学年も「地域が好きである」に肯定的に回答している生徒の割合が高く、「地域の行事に参加してしている」と回答している生徒の割合も高い。
- どの学年も先生や友達、家の人から認められていると答えている生徒の割合が多い。
- 就寝、起床時刻や食事をきちんと摂るなどの生活習慣が身に付いている生徒が多い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○領域の「話すこと・聞くこと」に関して、全国平均正答率を大きく上回った。 ●教科全体の基礎・活用ともに、全国平均正答率をやや下回り、特に、話の内容を捉え、適切な質問をすることや自分の考えを明確にして文章を書くこと の正答率が3割であった。	□授業の中で、話の内容を適切に聞き取るために、聴取の学習を積極的に取り入れる。 □単元のはじめに、文章に対して自分の考えを書く機会を多く設ける。
	2年	○教科全体、基礎・活用ともに、全国平均正答率を大きく上回った。 ●話し合いの内容を聞き取り、自分の考えをまとめて話の構成を考える問いと、文節の関係についての問いでは、目標値を下回った。	□授業の中で話し合いの機会を積極的に設け、話し合ったことをもとに自分の考えを表現する活動を取り入れる。 □文法について、文章の中で関連する表現を取り上げたり、文法の単元でさかのぼって復習したりする。
	3年	○教科全体、観点別正答率ともに、全国、県の平均正答率を大きく上回った。特に、「知識・技能」に強みが見られる。 ●「読み手の立場に立つて」思考したり、「知りたい情報に合わせて」質問を選択するなど、情報を整理して思考、判断する力に課題が見られた。 ●短答式、記述式問題に比べて選択式問題の正答率が低かった。	□資料を読み取って考えたり、話し合いを通して考えを深め、整理して表現する活動を取り入れる。 □選択肢の内容のわずかな違いを読み取り、適切に判断する力を養う。
数学	1年	○「変化と関係」の内容では、全国の平均正答率・県の平均正答率を大きく上回った。 ●「図形」と「データの活用」の内容で、全国の平均正答率・県の平均正答率をわずかに下回った。 ●図形分野の「平面図形」の問題の平均正答率が低かった。	□1年時の図形の学習の際に、復習の時間を取り入れる。
	2年	○「図形」の内容で、全国の平均正答率・県の平均正答率を大きく上回った。 ●「データの活用」の内容では、全国の平均正答率・県の平均正答率を下回った。 ●「データの活用」の領域では、「データの分析の傾向」の問題の平均正答率が低かった。	□確率の学習の際に、相対度数や累積相対度数の内容を思い出させる。
	3年	○「数と式」の内容では、全国の平均正答率をやや下回ったが、県の平均正答率を上回った。 ●「関数」と「データの活用」の内容では、全国の平均正答率・県の平均正答率を大きく下回った。 ●「データの活用」の内容の「累積度数」の正答率が低かった。	□3年時の「データの活用」の学習の際に、復習を行い、新しく学習する内容と関係づける。
英語	2年	○「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域全てが全国と同程度の力がついている。 ○基礎・活用では「基礎」の区分では全国・市の正答率をやや上回っている。 ●観点の「主体的に学習の取り組み態度」を問う問題の正答率が全国・市を大きく下回っている。 ●記述式の解答の正答率が約2割と低くなっている。	□授業の中で、自分のことや身の回りのことを既習の単語や文法を使って表現する機会を意識して設ける。 □友達と協働しながら学べるようなペア学習やグループ学習といった学習形態を工夫する。
	3年	○領域では「書くこと」の正答率が全国の正答率をやや上回っている。 ○問題形式では「記述式」の問題の正答率が全国の正答率を上回った。 ●「読むこと」の領域の正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●「知識・技能」を問う問題の正答率が全国平均を下回っている。	□教科書の本文を活用して、概要を捉える活動や文と文の関係を捉えながら読む活動を取り入れる。 □既習の文型や単語を繰り返し活動の中に組み込み、学習内容の定着を図る。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○国語・英語については、無解答率が全国より少ない。 ●語彙量が少なく、わからない言葉があっても辞書を引いて、調べたり、人に聞いたりする生徒が少ない。 ●説明を記述する問題で、無解答率が高い。 ○(英語)上位層の生徒は予習や復習をしたり、返された答案の見直しをしている。 ●自分の考えを整理し、まとまりのある内容を英文で書く問題の正答率が低い。	□(国語)語彙量を増やすために、朝読書の時間や授業時間の中で読み聞かせを行う。 □(数学)数学の学習内容を使って説明する場面を増やす。 □(英語)家庭学習の取組についてその意義や方法を再確認し、主体的に取り組むような工夫を凝らす。 □授業中の少人数での話し合いの場面を増やすだけでなく、課題の提示の仕方を工夫して、話し合いの内容が深まるようにする。 □「だんだんタイム」(ソーシャルスキルトレーニング)を継続、発展させ、対話のスキルを向上させる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○筆記用具を用意してから勉強するなど、学習環境を整えている生徒が多い。 ●計画を立てて勉強することや問題集などを使い繰り返し勉強することが苦手な生徒が多い。 ○家庭学習の時間が2時間以上の生徒の割合は全国平均より低いが、1~2時間勉強している生徒の割合は全国平均の2倍程度である。 ●学年によっては読書や新聞を読む生徒が少なかったり、「読書が好きですか」の問いの肯定的な回答が少ない。	□学習計画の立て方や自学のやり方について全体で確認をし、チェックすることをこまめに行う。 □学校図書館や朝読書の時間を活用して読書に親しむとともに、生徒会活動や読書ヘルパーとの協力により、本との出会いの機会を増やす。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○2,3年生は地域行事への参加や地域貢献についての質問に対する肯定的な回答の割合がとても高い。 ○きちんと朝ご飯を食べたり、食事を家族といっしょに食べている生徒の割合が多いことより、家庭内での関わりができていと考えられる。	□ふるさと教育や地域との関わりの機会を継続、発展させ地域貢献への実践力をさらに高める。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立湖陵中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 1年生は国語、数学ともに、正答率が全国平均及び市平均を大きく上回っている。
- 2年生は各教科ともに正答率が全国平均及び市平均を下回っており、特に数学・英語は大きく下回っている。
- 3年生は各教科ともに正答率が全国平均を下回っており、特に国語・英語は大きく下回っている。
- 1、2年生ともに「自分が住んでいる地域が好きですか」という質問に対して、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っている。また、1、3年生は「地域の行事参加率も高い。」
- 1、2年生は、「自分で決めて、テレビを見ている」の質問に対して、肯定的に捉えた割合が50%以下である。
- 1、2年生は、「勉強に参考書や問題集、辞書を利用している」割合が全国平均を下回っている。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全体では全国平均を大きく上回っており良好な状況である。 ○領域「読むこと」、「書くこと」(観点別「思考・判断・表現」)、「言語事項」において全国の正答率を大きく上回っている。 ●内容「漢字の読み」、「説明的文章の読み取り」において、全国の正答率をやや下回っている。	□漢字テストの実施においては、正しい字形を意識させる事前説明や返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。 □説明的文章の単元において、全体の構成をとらえるような課題、条件に応じた表現ができるような課題を設定する。
	2年	○全体では全国平均とほぼ同程度で概ね良好である。 ○領域「書くこと」、「情報の扱い方」において、全国の正答率を大きく上回っている。 ●領域「漢字を書く、文法・語句」(観点別の「知識・技能」)、「文章の内容を読み取る」(「思考・判断・表現」)において、全国を大きく下回っており課題がある。	□漢字テストの実施においては、正しい字形を意識させる事前説明や返却後の直し提出など、テスト前後を含めた指導を引き続き行い定着を図る。 □文法は1年時既習範囲の復習機会を設定し、学び直しをすることで理解定着を図る。 □文章の読み取りにおいては、全体の構成をとらえるような課題、論の進め方や表現について着目する課題などに取り組み、条件に応じた表現ができる力をつける。
	3年	●全体では全国平均を大きく下回っている。 ○領域「我が国の言語文化に関する事項」が全国の正答率と同程度である。 ●領域「話すこと・聞くこと」「書くこと・読むこと」(観点「思考・判断・表現力」)で全国の正答率を大きく下回っている。	□漢字テスト前の正しい字形指導、返却後の復習提出などで定着を図る。 □文法は1、2年既習範囲の復習機会を設定し、学び直しをすることで理解定着を図る。 □新聞コラムを自学用課題として利用し、さまざまなジャンルの文章を読む機会を設定する。段落の要約や感想記述に取り組むことで読み取ること、表現する力をつける。
数学	1年	○「数と式」の領域は全国平均正答率を上回っている。 ○「データの活用」の領域は全国平均正答率を大きく上回っている。 ○「図形」の領域では全国平均正答率を上回っている。 ●説明する記述式の問題での無解答率が高い。	□表やグラフなどのデータを的確に読み取り、分析したり説明したりする活動を充実させる。
	2年	●「数と式」の領域は全国平均正答率を大きく下回っている。 ●「関数」の領域は全国平均正答率をやや下回っている。 ●「図形」の領域は全国平均正答率を大きく下回っている。 ●「データの活用」の領域は全国平均正答率を下回っている。 ●立式する問題での無解答率が高い。	□授業での小テストや単元テストを活用し、基礎の定着を図る。 □図形の学習では、具体物を使って、視覚的に学習できるようにする。 □自分の考えを表現できるように、話し合い、発表の活動を授業に取り入れ、理由をつけて説明できるようにする。
	3年	●全体では全国平均を下回っている。 ○領域「データの活用」が全国平均正答率を上回っている。 ●領域「数と式」が全国平均正答率を大きく下回っている。	□基本的な計算問題の反復練習を着実に行う。 □事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動を充実させる。
英語	2年	○さまざまな英文を読んで大まかに内容を把握する問題では、全国平均正答率と同程度である。 ○日常的な会話などを聞いて概要や要点を捉える問題では、全国平均正答率をやや上回っている。 ●「語彙の知識・理解」と「語形・語法の知識・理解」で全国平均正答率を大きく下回っている。	□動詞や形容詞などの語形変化や基本文型および会話表現を中心とした反復練習を行い、基本的な知識・技能を身につける。 □対話文などまとまった英文を多く活用し、時制や会話の流れを意識することに習熟させる。
	3年	○比較的短い英文による情報を正確に聞き取る問題は、全国平均正答率と同程度である。 ●英文量が比較的多い聞き取り問題や読み取り問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●自分の意見や学校などの紹介文を書くなど、条件にあう英文を書く問題の無回答率が高くなっている。	□ある程度まとまった英文を読んだり聞いたりする反復練習をすることで、英文から情報を得ることに習熟させる。 □簡単な英語を使って表現する場面を繰り返し設け、英語で表現することへの意欲を喚起する。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○1年生は「授業で分からないことがあれば、先生に質問している」では、各教科ともに全国平均を上回る。 ●2年生は「授業の後で、授業の前と比べて、自分の考えが深まったと感じることがありましたか」と回答した生徒の割合が市平均を下回る。 ●3年生は「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」という質問に対して、「週3回以上」が全国平均を下回る。また「自分の考えを発表する機会では、資料等を用い工夫して発表していましたか」という質問に対して肯定的に捉えた生徒の割合が全国平均を下回る。	□出雲市授業スタンダードの「めあて」「ふり返り」の職員研修を継続的に行い、各教科・学年で共通理解した上で実践していく。 □授業スタンダードを実践することで、生徒自身がその授業の理解と自分の考えの変容がわかる授業展開を行う。 □教科の授業公開を計画的に実施し、授業研究を通して授業の改善に努める。 □ICT機器を活用する場面を積極的に取り入れる。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○1、2年生ともに「宿題をきちんとしているか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒の割合が多い。 ●2年生は「予習・復習をしているか」という質問に対しての肯定的な回答は、各教科50%以下だった。 ●1、2年生ともに「辞書、参考書や問題集を使って勉強している」学習塾に通って勉強している等の質問では、全国平均を下回っている。 ●3年生は、「普段(月曜日から金曜日)の家庭学習の時間時間」に対する回答で「2時間以上」と回答した生徒の割合が全国平均を下回る。	□自学ノートで授業の予習や復習、発展的な学習のやり方を指導する。また、参考になる取組については提示し、仲間の取組から学ぼうとする姿勢を育てる。 □各教科で家庭学習と繋がる内容の課題内容を吟味・検討し、実践していく。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○1、2年生ともに「自分が住んでいる地域が好きである」と回答する生徒が全国平均を大きく上回る。また、1年生は、「地域の行事への参加率」も上回っている。 ●1、2年生ともに「新聞の記事を読んでいる」と回答する生徒が全国平均を下回る。 ○3年生は、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して「参加している」と回答した生徒の割合が高い。	□地域の活動やボランティア活動の紹介を行い、積極的な参加を推進する。 □HP、ブログ、学校便り等で学校の様子を積極的に家庭、地域に発信する。 □図書館や廊下に新聞2紙を閲覧できるようにし、社会情勢や地域の話題に興味・関心が向くようにする。 □学校での学習活動に、積極的に地域の人材・施設を活用していく。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立大社中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- ・(1年生)国語は全国・市と同程度、数学は全国・市をやや上回った。
- ・(2年生)国語は全国と同程度、市をやや下回った。数学と英語は、全国・市を大きく下回った。
- ・(3年生)国語と数学は全国・県・市と同程度、英語は全国を大きく下回り、県と同程度、市を下回った。
- 「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合が高い。
- 記述式の問題の正答率が低い。内容理解、解答速度、解答意欲に課題が見られる。
- 予習や復習をしていると回答した生徒の割合が低い。
- メディアに触れる時間は長い、ニュースや情報番組は視聴していない割合が高い。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○全ての観点別正答率が全国平均と同程度であった。 ○領域別正答率はほとんど同程度かやや上回ったが、特に「書くこと」が全国平均より4ポイント高かった。 ●「我が国の言語文化に関する事項」が全国平均を大きく下回った。	□慣用句などの多くの語句に触れる機会を増やし、日常生活で使えるようにする。 □メモを取りながら人の話を聞いたり、相手の話に質問をしたりする活動を取り入れる。
	2年	○教科の正答率は、全国平均と同程度であった。 ○問題内容別正答率の「漢字の読み書き」において全国平均をやや上回った。 ●領域別正答率の「話すこと・聞くこと」「読むこと」において全国平均を下回った。	□説明的な文章のおもしろさに触れさせ、読むことに慣れ、読み取り方についての学習に時間をかける。 □「話すこと・聞くこと」において、ただ「話す・聞く」という場面を取り入れるのではなく、観点を明確にし、記述をさせ、ふりかえりをし、改善した形でもう一度「話す・聞く」の場面を設定する。
	3年	○どの観点においても全国平均と同程度の正答率だった。 ●記述式の問題において、無解答率が高く、また、解答していても条件に従うことができていない生徒も多い。特に「自分の経験や知識に触れて書く」ことが全国平均を大きく下回った。	□目的に応じて複数の情報を整理する学習活動を意識的にを行い、情報を適切に取り出す力を高める。 □字数制限や条件を設定し、時間制限を設けて書く活動を行ったり、定期テストに記述式の問題を出題したりして、「書くこと」に慣れる。
数学	1年	○どの領域・観点においても全国平均と同程度もしくは、少し上回る正答率だった。 ●平面図形の問題では、目標値を下回った。 ●記述式の問題において、無解答の割合が少し多い。	□図形の計量では、公式の成り立ちを丁寧に確認し、繰り返し問題演習を行い、定着を図る。 □記述問題に対応できるように、普段の授業でノートに考えや、理由などを記述させる場面を意図的に取り入れたり、定期テストに記述式の問題を出題したりする。
	2年	○1次方程式や比例式を解くことは、全国平均と同程度であった。 ○表をもとにして反比例の式に表す問題は全国平均を上回った。 ●基礎・活用、どの領域別正答率でも、全国平均を下回った。 ●与えられた文章題に対して、適切な式を作る問題では、無解答の割合が高かった。	□課題テストや小テストを実施し、それに向けての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □生徒同士の教え合いの時間を設け、対話を通して理解を深めていく。 □文章題から立式する際の手順を掲示し、慣れるまで手順に沿って確認しながら問題を解いていく。
	3年	○度数分布表から累積度数を求める問題の正答率は、県平均・全国平均を大きく上回った。 ○関数分野の問題の正答率が、全国平均と同程度であった。 ●図形分野の問題の正答率が、全国平均より大きく下回った。 ●特に空間における平面についての理解や図形の合同をもとにした証明に課題が見られる。	□課題テストや小テストを実施し、それに向けての家庭学習を促すことで、各領域の基礎問題の定着を図っていく。 □生徒同士の教え合いの時間を設け、対話を通して理解を深めていく。 □図形の証明の授業において、生徒がお互いの証明の記述について意見を述べる学習を取り入れ、よりよい証明はどのようなものかについての理解を深める。
英語	2年	○リスニングで、対話の内容を聞き取り、適切に応答している文を選ぶ問題の正答率は、全国平均と同程度であった。 ●基礎・活用、どの領域別正答率でも、全国平均を下回った。 ●基本的な語形や語法(代名詞の目的格や一般動詞の過去の疑問文)については、全国平均を大きく下回った。	□基本的な語形や語法を定着させるために、授業で演習したり、繰り返し練習したりする時間を設定する。 □学習した表現を授業で使う場面を意図的に設定し、英語を使ってやり取りすることの楽しさを体験させることによって、英語学習への興味を高める。
	3年	○リスニングにおいて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題の正答率は、全国平均を大きく上回った。 ●書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題の正答率は、全国平均を下回った。 ●質問に対し、まとまりのある内容を話す問題に関して、できなかった生徒の割合が県・全国平均を上回った。	□授業で、まとまった英文を読んだあとに、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く活動を意図的に設定し、自分の考えを英文で書く力を育てる。 □授業で、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり、意見を述べ合ったりする活動を意図的に設定し、即興的に自分の意見を述べる力を育てる。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○「授業できちんとノートをとっている」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回る。 ○「学習においてタブレット端末が役に立っているか」では、有用性を理解しながら使用している実態がわかる。(3年) ●「自分の力をできるかぎり伸ばしたい」「将来の夢や希望をもっている」の質問に「あまりあてはまらない」と答えた生徒の割合が全国平均を上回る。(1, 2年)	□各教科の授業、学級・学年・学校の諸課題について話し合い活動で、自分たちで解決する意識がもてるように、課題や場を設定し、決めたことを実行できるようにしていく。 □今、自分が努力することを自覚させ、継続させ、それが今後につながっていくことを学習する。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」「家の人から言われなくても、進んで勉強している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回る。 ●平日の家庭学習の時間が、30分以内と答えた生徒が60%を超える。1時間以内と答えた生徒を合わせると、90%を超える。 ●新聞の記事を読んでいる、テレビのニュースを見ている、勉強に役立つテレビ番組を見ていると答えた生徒の割合は、全国平均を大きく下回る。(1, 2年)	□平日の家庭学習の習慣が継続的に定着するように、課題や宿題の出し方について工夫する。また、家庭学習の学習方法を何度も教授する。 □授業で時事問題に興味関心を持たせられるよう、新聞記事を読む学習を取り入れたり、社会のニュースについて関心をもつような学習や活動を行ったりする。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合が全国平均を大きく上回る。 ○「家の人と決めた約束を守っている」「家の人に挨拶をしている」など基本的な家での生活習慣ができていると答えた生徒の割合が、全国平均を大きく上回る。 ●「地域や社会のよくなるために何をしたらよいか、考えることがあるか」という質問に「あまりない」「ない」と答えた生徒を合わせると60%を超える。	□自分のメディアへの接し方について、考える学習を行う。 □総合的な学習の時間に行うふるさと学習を通して、地域についての理解を深めるようにする。さらに、学年通信などを活用して、中学校の学習をお知らせするようにする。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川東中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

<p>(学力調査)</p> <p>○2、3年生の記述式の設問に対する無解答率が低い。また、3年生の国語と数学で、記述式の設問の平均正答率が全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●1年生の国語で、活用問題の平均正答率は市・全国平均と同程度であるが、基礎問題の平均正答率が市・全国平均を下回っている。</p> <p>(学習状況調査)</p> <p>○基本的な生活習慣や家庭学習の習慣、学習活動に関する質問に対しては、概ね良好な回答状況である。</p> <p>○「自分には良いところがあると思う」と回答した生徒の割合が、全国平均を大きく上回っている。「友だちや家族、先生から認められている」という実感をもっている生徒も多い。</p> <p>●1年生で、「本(マンガや雑誌をふくまない)を読んでいる」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を大きく下回っている。また、どの学年でも、1日あたりの読書の時間が短い(「30分未満」「まったくしない」)生徒の割合が、市や全国の平均と比べて高い。</p>

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○2段落構成で自分の立場とその理由を記述する問題の正答率が全国平均を大きく上回っている。 ●小学校で学習した漢字が定着していない様子が見られる。 ●複数の条件を踏まえた上で短文を記述する問題の正答率が低い。	□漢字は、授業での小テストや、全校漢字テストに向けての学習を通して定着を図る。また、日頃から文章を書く際には、漢字を使って書くように指導する。 □複数の条件を踏まえて解答する問題の正答率が低かった背景には、問題の形式や解き方に慣れていないということがあると思われる。授業や定期テストなどで、同種の問題を扱い、解き方を解説する時間をもつ。
	2年	○概ね良好な解答状況であり、ほとんどの設問で全国平均正答率と同程度、もしくは上回っている。 ●1年時に学習した文法の理解が曖昧である。 ●表現の仕方が文章にもたらす効果を捉えることに課題がある。	□授業の中に文法を復習する時間を随時取り入れていく。 □比喩や対比などの表現がもたらす効果について考えることができるよう、授業の展開を工夫する。
	3年	○ほとんどの設問で全国平均正答率を上回っている。 ○記述問題の正答率が全国平均を大きく上回っている。また、無解答率も低い。 ●意見と根拠など情報どうしの関係を捉えることに課題がある。 ●二つの文章を比較し、共通する表現の効果を捉えることに課題がある。	□授業で説明的文章を扱う際に、どの部分が筆者の考えやその根拠に当たるのかを考えながら文章全体の構成を捉えられるよう、授業展開や発問を工夫する。 □授業で文章を読む際に、表現の工夫やその効果について考える場面を設ける。
数学	1年	○基礎問題、活用問題ともに全国平均と同程度の正答率である。 ○面積と体積、比例・反比例の問題は、全国平均正答率を大きく上回る。 ●文字と式の問題の正答率は、全国平均を大きく下回る。 ●「授業で分からないことがあれば質問している」と回答した生徒の割合が低い。	□復習プリントなどを繰り返し行い、基礎学力の定着を図る。 □ペアやグループ学習を取り入れ、質問しやすい雰囲気づくりに努める。
	2年	○基礎問題、活用問題ともに全国平均正答率を上回っている。 ○データの活用問題の正答率は、全国平均を大きく上回っている。 ●図形の問題の正答率は、全国平均をやや下回っている。 ●問題を読んで式を立てることに課題がある。	□授業で立式をするときに数量関係を確認する時間を設ける。 □図形の授業では視覚的な教材を用いるなど、授業展開を工夫する。
	3年	○数と式、データの活用の領域の正答率は、全国平均を上回っている。 ○記述問題の正答率が全国平均を上回っている。また、無回答率が低い。 ●数量の変化や図形の性質の理解に課題がある。 ●関数では式の組み立てやグラフをかく作業はできるが、それらが何を意味しているのかの理解に課題がある。	□数量の変化は視覚的に理解できるよう工夫する。図形の性質はフラッシュ問題等を使い図形と性質を紐づけさせる。 □式やグラフ、数量の変化等が何を意味しているのか丁寧に指導していく。
英語	2年	○文の情報を読み取り、その内容の理解を問う問題では、正答率が全国平均を大きく上回っている。 ●基本的な語形・語法を問う問題では、正答率が全国平均を大きく下回っている。 ●与えられた情報に基づいて英文を書く問題では、英文を正確に書くことに課題がある。	□授業の中で、基本的な語形や語法を復習する時間を随時取り入れていく。 □与えられた情報を基に英文文に取り組み活動を定期的に取り入れ、正しく書くことができるようにする。
	3年	○状況を描写する英語を聞き、内容に最も適する絵を選択する問題の正答率は、全国平均を上回っている。 ○短い文章を読み、要点を捉える問題の正答率は、全国平均を上回っている。 ●未来形の肯定文を正確に書くことに課題がある。 ●「相手の行動を促す」表現を理解し、依頼する英文を書く問題の正答率は、全国平均を大きく下回っている。	□未来形の文法を問題演習で復習し、その後、条件作文を複数回行って、正確に表現できるようにする。 □会話の中で用いられる依頼の表現を確認し、絵を提示して考えさせたり、聞き取り問題を行ったりして、生徒自身が判断して「相手の行動を促す」英文を正しく書けるようにする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○どの学年でも、授業や学級活動において、話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、解決方法を見つけたらしている」と回答した生徒の割合が高い。 ●3年生で「学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」と回答した生徒の割合は全国平均を大きく上回っているが、実際の使用頻度は全国平均と比べて低い。また、2年生でも使用頻度が低い。	□ペアやグループ、学級全体での話し合い活動を、目的や意図を明確にした上で今後も計画的に取り入れる。 □生徒が自ら調べたり、考えをまとめたり、友だちと考えを共有したりするための手段として、ICT機器を積極的に活用する。また、教科間、学年間でも活用方法について情報を共有し、生徒の深い学びにつながるよう、学校全体として取り組んでいく。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○どの学年でも、平日の家庭学習の時間が全国平均を上回っている。 ○1、2年生の「家の人から言われなくても進んで勉強している」という項目について、肯定的な回答をした生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。また、全学年とも、「自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ●1年生で、「授業で学んだことを使って、家で、同じような問題に取り組んだり、新しい問題に取り組んだりする家庭学習をしている」と回答した生徒の割合が市の平均と比べて低い。	□生徒会活動として行っている学習時間調査や自主学習ノートの良い取組の紹介などを、今後も継続して行う。また、それらの取組について学級や学年でも話題に挙げ、生徒が意欲的に家庭学習に取り組めるよう支援する。 □各教科や学年で、効果的な復習の仕方や自主学習ノートへの取り組み方を助言する。 □テスト前などに学習計画表を配付し、見通しをもった学習ができるよう支援する。また、必要に応じて計画の立て方を指導するなど個別支援を行う。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○「自分が住んでいる地域が好きである」と回答した生徒の割合が高い。 ○3年生で、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した生徒の割合が、全国平均を大きく上回っている。 ●1、2年生で、「地域の行事に参加している」と回答した生徒の割合が低い。 ●「新聞の記事を読んでいる」と回答した生徒の割合が低い。また、1、2年生で「テレビのニュースを見ている」と回答した生徒の割合が、全国平均を下回っている。	□地域のことについて知り、地域のよさを実感する学習の場として、「ふるさと学習」を継続して行う。 □地域の祭りや清掃活動、地域でのボランティア活動などについて、全校に呼びかけたり、朝終礼等で話題に挙げたりして、積極的な参加を促す。 □時事に関心をもつことができるよう、朝終礼で生徒が新聞記事に関するスピーチを行ったり、担任が関連するニュースについて取り上げたりする取組を継続していく。また、昇降口に新聞を置き、生徒が気軽に読めるよう環境を整える。

令和5年度(2023)全国及び市学力・学習状況調査結果分析と改善策

出雲市立斐川西中学校

1 全国及び市学力・学習状況調査 本校の結果概要

- 【1年 出雲市学力・学習状況調査】
 ○国語と数学ともに教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。
 【2年 出雲市学力・学習状況調査】
 ○国語については、教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。
 ○数学については、教科の正答率が全国平均正答率をやや上回った。
 ●英語については、教科の正答率が全国平均正答率を大きく下回った。
 【3年 全国学力・学習状況調査】
 ○国語と英語については、教科の正答率が全国平均正答率と同程度であった。
 ●数学については、教科の正答率が全国平均正答率を下回った。

2 学力調査結果分析と改善策

教科	学年	結果分析	改善策
国語	1年	○「漢字を書く」は全国平均を大きく上回る。 ○「報告する文章を書く」は出雲市・全国平均を上回る。 ●「インタビューの内容を聞き取る」は出雲市・全国平均をやや下回る。	□聞き取りの問題を授業で実施する。 □説明的文章における情報と情報との関係について指導を行う。
	2年	○「漢字を読む」は出雲市平均を大きく上回る。 ○「文学的文章の読み取り」は出雲市・全国平均を大きく上回る。 ●「指定した長さで書く」は出雲市平均をやや下回り、全国平均を大きく下回る。	□話を聞くことの指導を全校で行う。 □100～200字の課題作文を授業で実施する。
	3年	○「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国平均を大きく上回る。 ○「書くこと」「読むこと」は全国平均と同程度である。 ●「話すこと・聞くこと」は全国平均をやや下回る。 ●記述式問題の無解答率が全国平均に比べて高めである。	□聞き取ったことをもとに自分の意見をまとめる学習を行う。 □自分の考えを筋道立てて書かせる活動を行う。
数学	1年	○全ての領域、観点における正答率が、全国平均と比べ、同程度かやや上回る。 ○「変化と関係」の領域は、全国平均を大きく上回る。	□基礎的な力を確実に身につけるため、授業や家庭学習に反復練習を取り入れる。 □身近に存在する数学に関わる事象を例とし、実感を伴って内容を理解できるようにする。
	2年	○全国平均、出雲市平均と比べ、正答率が下回る領域、観点は無い。 ○「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」は、全国平均を大きく上回る。	□操作活動やICTを使った活動を効果的に取り入れ、意味の理解を助ける。 □基礎的な力を確実に身につけるため、時間制限を設けた反復練習を取り入れる。
	3年	○「数と式」領域においては全般的に県平均を上回る。 ●証明問題や自分の考えを数学的な表現を用いて説明することにおいては、全国平均を下回る。	□自分の考えを筋道を立てて伝える活動を増やす。 □既習事項については、現在の学習と関連させて復習し、定着を図る。そのためにタブレットパソコンの活用を促す。
英語	2年	●全ての領域で目標値を下回っている。 ●「書くこと」の力に課題が見られる。場面に応じて書く文、情報に基づいて書く文、3文以上の文ともに正答率が市・全国を大きく下回る。	□教科書の1文1文を理解した後、英文の概要や要点、話し手や書き手の意図を読み取るような指導を行う。 □基本文の反復練習の後、応用表現の定着を図る。教科書と副教材の表現問題のうち、特に書くことに丁寧に取り組むよう指導する。
	3年	○「聞くこと」は全国平均をやや上回り、「読むこと」は全国と差は見られない。 ●「書くこと」の力に課題が見られる。場面に応じて書く文、情報に基づいて書く文の正答率が全国を大きく下回る。 ●知識技能を問う問題や、問題形式が選択の問題は全国と差は見られないが、思考・判断・表現を問う問題や記述する問題は解答率が低く、また無解答が多いという課題がある。	□「書くこと」の問題への苦手意識を取り除くため、日常でよく使われる表現を場面に応じて使う練習を繰り返し行い、基本的な文の定着を図る。 □タブレットの翻訳に頼らず、伝えたいことを英語で表現できるよう、優しい日本語への言い換えをして、教科書の既習表現を用いて表現できる内容を増やす練習をする。

3 学習状況調査結果分析と改善策

観点	結果分析	学校全体で取り組む改善策
(1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善	○2・3年生では「授業中にパソコン・タブレットパソコンを週に数回以上使用した。」生徒の割合が市や県の平均より高い。 ○2・3年生では、「授業中、自分の考えを伝えたり、仲間の考えを聞いたりして、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。」生徒の割合が市や全国平均を大きく上回る。 ○3年生では「1・2年生の時に英語で読み書きした内容のまとめたり、自分の考えを記述したりする活動」が全国平均より多く行われていた。 ●3年生では「日常的に英語を使う機会が十分にあるか」「将来積極的に英語を使う職業に就きたいか」という設問に肯定的に回答した生徒の割合が全国平均を大きく下回る。 ●1・2年生では、「前の学年では、授業の最後に学習したことを振り返る活動を毎回行っていたと思いますか」との設問に対する肯定的回答が、市平均を下回る。	□授業の「ねらい」や各教科等における「見方・考え方」を踏まえた「めあて」を提示し、学習の見通しがもてるようにする。 □授業で示した学習課題について、自分の考えをもつうえで、友達や先生の考えに触れるよう、ペア・グループ活動を工夫する。 □授業の終わりの「振り返り」で生徒が記述した内容を把握し、次の指導に生かす。 □一斉学習、個別学習、協働学習の各場面で、ICT機器を活用して、授業改善に取り組む。 □日常生活との関連性を感じられるような授業づくりを行う。
(2) 主体的な学びに結びつく家庭学習の充実	○「朝食をきちんと食べる」「睡眠時間が長い」など規則正しい生活をおくっている生徒の割合が全国平均より高い。 ○3年生では「家庭学習の課題として、どの程度パソコンなどのICT機器を使用して、英語の音声を開いたり英語を話したりする練習をしていますか」との設問に「週1回程度」と回答した生徒が全国平均を大きく上回る。 ●「学校に行く日は、学校の授業時間以外に1日にどれくらい勉強しますか」との設問に、「1年生は「1時間半以上」と答えた生徒の割合が全国平均より大きく下回る。また3年生も「1時間以上」と答えた生徒の割合が全国平均より大きく下回る。	□生徒がタブレットパソコンを家庭でも主体的に活用できるよう、使い方の指導や課題の出し方を工夫する。 □家庭学習の習慣化を図るため、定期テスト前の学習計画表や、小中連携した毎学期実施の「メディアと上手につき合うウィーク」を活用する。 □「学習のしおり」をもとに、学習の仕方を指導し、家庭学習とつながる授業づくりを進める。また、適度な分量・日程で家庭学習ができるように、各教科から課題を出す。
(3) 家庭・地域との連携、社会との関わり	○3年生は「日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人を知ってもらいたいと思っていますか」との設問の肯定的回答が全国平均を上回る。 ○1・2年生は「自分が住んでいる地域が好きである」「家の手伝いをしている」生徒の割合が全国平均を大きく上回る。 ●「地域の行事に参加している」生徒の割合が2年生は全国平均と同程度、1・3年生は全国平均を大きく下回る。 ●1・2年生では「新聞の記事を読んでいる」生徒の割合が全国平均を大きく下回る。	□コミュニティセンターと連携して、地域の行事やボランティア活動への参加を呼びかけ社会と関わる機会をつくる。 □総合的な学習の時間等で、地域について学び、見つめ直す学習を行う。 □道徳科で、自分と家庭や地域・社会との関わりについて考えたり、友達の考えを聞いたりする場を設定する。